

解体

松本西夏

五十年を引き倒す
シート巡らし始まりぬ
色即是空空即是色
五十年を葬る念珠持ち
家引き倒さるるとき
斜交いに空うち震う
家引き倒されし後
瓦礫の中に立ち尽くす
炎暑の日輪沸騰す
解体作業場覆う物なし
炎昼の真下男あり
裸の背中に朱の汗走る
声荒げクレーン操る
裸の背中に竜神昇る
解体の重機の唸り
幾度息切れしかと思ふ

炎熱ビームにて射る
雑木雑草蒸し焼かる
炎暑の報喧し
熱帯気候に変わり果てしか
三八度の下を駆まで歩く
日は痛みとなる
熱中症か
救急車来て運び出さる隣り人
熊蟬の声早絶えしに
炎暑いよいよ極まる
我が国一番の平均気温らし
この地の今夏
雨直下に雪崩落つ
音なくおどろおどろと
法師蟬聞かぬまま
台風一過早秋冷となる
一日に十度C降下する
気候の震え止まず
竜巻来襲
寸刻秒の間に家も車も社も消ゆ
異常気象という
性悪の戯れの悪行なるか